

## 令和7年度 第4回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和7年10月23日（木）午前9時30分～午前10時45分

ところ：市役所5階 505会議室

### 1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）

傍聴者 なし

### 2 内 容

#### <議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

(1) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3回役員会・第3回拡大役員会  
について（報告）

(2) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について

#### <事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

##### 【地域学習支援課】

(1) 令和7年度非核平和学習事業について（報告）

##### 【公民館】

(1) 公民館主催イベント（8月）について（報告）

(2) 公民館主催イベント（10月、11月）について

##### 【図書館】

(1) 第4次小平市子ども読書活動推進計画 令和6年度進捗状況について（報告）

(2) 図書館主催イベント（8月～10月）について（報告）

(3) 図書館主催イベント（11月、12月）について

(4) 開館50周年記念事業 講演会 小平の玉川上水と福祉の歴史

### 3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 図書館の子ども読書活動推進計画について質問がある。

たくさんのイベント、大変すばらしいと思っている。

ブックスタートなど、新しい試みを次から次に行うことに、すごく感銘を受けている。

こどもが本と出会うために、今回は家庭と学校と地域の各領域にわたり、多角的に読書を推進する計画を進めているとのことである。しかし、一方で、ティーンズ、中高生の読書時間が減少する懸念があるのではないか。現在の参加状況や取組み、学校や保護者からの意見があれば教えていただきたい。

○事務局 学校、保護者からの意見は特段伺っていない。取組みとしては、ティーンズの利用者が使えるようなスペースを専用に設け、本を借りたり、勉強しながら本と触れ合ったりする機会を創出する取組みを続けている。

他に、仲町図書館では、ティーンズ委員会の募集をかけ、ティーンズ世代に絞った施策を何個か展開している状況である。

○委員 参加者について、参加者数の目標値や来館者数などの状況は取っているのか。

○事務局 ティーンズコーナー利用率や、ティーンズの利用者がどの程度本を借りているかについての統計上の数字は取っていない。

○委員 ティーンズ世代の施策に関して、図書館での居場所という観点で質問がある。机を拡張する、電源を設置する等、学びの意欲のある学生に対しての施策は行っているのか。また、今後行う予定はあるのか。

○事務局 電源コーナーやスペースの拡充については、利用状況に応じて、適宜、行っている。

スペースの問題で難しいところもあるが、要望をいただいた際は、検討して取り組んでいる状況である。

今後のこととしては、小川西町の新しい複合施設においては、図書館、公民館等が入る複合施設であることから、共用スペースで集まれる場所の設置の検討を進めている。

○委員 子ども読書活動推進計画に関しての感想である。計画の中に学校も入っていることから、本校の活動の様子をお話したい。学校司書の配置、学校司書への研修をしていただいている。また、学習の内容に応じて本を揃えていただいている。子どもたちの手元には、学習支援端末もあるが、図書を手に取ることはとても大切である。

次に、第3「図書館・地域における読書活動の推進」にブックトークの実施がある。本校では、仲町図書館から来ていただき実施している。

テーマを設けて、全クラスを回る形で、こどもたちに近いところで展開している。

テーマに合わせて、こどもたちの創造を図りながら、続きは手に取って読んでねと声掛けされることにより、こどもたちの意欲が高まり、意欲的に図書室に向かう姿も見られる。

もうすぐ読書週間に入る。本校では、その時期に合わせて、読書活動に取り組んでいこうと考えている。図書離れが言われる中で、図書館には、大変ご尽力をいただいている。今後とも連携できたらよいと思っている。

○事務局 学校には、いつもご協力いただいております、感謝しています。

図書館では、学校司書や学校司書が使うシステムの関係、また、バックアップとして、学校と連携させていただき、子どもの読書環境を向上させる、こどもに読書に興味を持っていただく取組みを、側面的支援ではあるが、今後も何か要望があれば検討し、よりよい環境づくりに努めていく。今後ともご協力いただきたい。

○委員 まず、感想と意見がある。子ども読書活動推進はとてもよい試みである。特に、読書手帳を書いてみる試みはとてもよいと思う。また、手帳を3冊持っていくと何かもらえる仕組みは、読書活動を推進することに於いてよい機会になると感じた。このように、何かもらえることで、読書に結び付ききっかけになるのではないかと。

次に、資料No.7のりんごの棚について質問がある。名前の由来が分かれば教えていただきたい。なぜ「りんご」であるのか。

○事務局 詳しい資料がないことから詳細は説明できないが、北欧で、ハンディキャップがある方に対し、本をなじみ深いものにする活動があり、それが全世界に広がり、この活動に関するコーナーを作ることを「りんごの棚の運動」として、過去に展開された事情がある。

市内図書館では、実施している館と実施していない館があるが、中央図書館では、図書館の奥の目立たないところで実施していたことから、第5次計画では、なるべく目立つところで実施した。

○委員 図書館の事業概要に関して感想がある。

心を豊かにする図書館を目指すことに関し、概要の中では、図書館協議会の「変化する図書館」の提言が載っている。

この中で、多くの本を読むようになってほしいと考えるなら、乳幼児から本に親しむ習慣づけは重要であり、家庭で親が読書する姿を見ながら育つことが重要であるとしている。先ほどの委員の話と同様のことが触れられている。

本に親しむ雰囲気のある社会で育ち、また、周囲の大人が本を読んでいるのであれば、こどもはもっと本を読むようになるだろうとの提言であった。

提言に先立ち、図書館がこのようなことをこどもたちに向けてやっていたことと、図書館協議会、図書館を運営する職員が、この思いで進んでいただいていることに、本当に感謝する。

○事務局 この計画は、図書館担当者も非常に熱心に取り組んで作成したものである。

また、計画だけではなく、事業に関しても、先ほど感謝の言葉をいただき、大変ありがたいと感じている。職員が手づくりでプレゼントを作ったり、会計年度任用職員の方が熱心にやってくれていることから、本日いただいた感謝の言葉を伝え、より一層、励むように申し伝える。

○委員 読書について、ボランティアで携わっている小学校での状況についてお話しする。その学校では、5、6年生の読書離れが著しいことから、担当の先生が工夫して、昼休みにスライドの時間を設け、体育館でおはなし会をすることとなった。何回か実施し、自分も参加させていただいたが、集まってくるのは低学年の児童であり、5、6年生は来なかった。なぜ来られなか

ったのか児童に尋ねてみると、委員会の仕事があり、昼休みには行けなかったとのことであった。先生方の工夫が生かされていないことは残念ではあるが、現場の先生方がいろいろ工夫して頑張っていることはお伝えしたいと思う。

次に、図書館事業概要について質問したい。56ページの「中学生の職場体験受入れ」に、中学校15校で40人を受け入れましたとの記載があるが、中学校15校のカウントの仕方についてお聞きしたい。

○事務局 職場体験受け入れは、中学生が民間企業、公共団体を含め、さまざまな職場へ学校から依頼し、受入れ可能と回答をいただいた職場に受け入れ先として協力いただいている事業である。

毎年、図書館に限らず、市役所においても様々な部署で受け入れている。図書館で受け入れている生徒に尋ねてみると、図書館に興味があり、図書館に応募いただいたとのことであった。

概ね分館を含め、2、3名程度が一定の時期、2、3日間、実際の作業をしたり、図書館の概要について学んだりしている。また、実際にカウンターに立ってお客さんとの接客をしていただくことなどを通して、将来、図書館に興味を持っていただくような内容である。

○委員 市内中学校は、8校であるが、15校である理由を伺いたい。

○事務局 市立中学校の延べ校数である。

○委員 広島の非核平和学習について意見がある。前回の会議でも感想を述べさせていただいた。その後、自分が携わっている中学校の生徒が1人参加したので、その生徒に直接お話しした。中学校で、平和学習に参加した話はできますかと聞いたところ、やってみたいとの意向があり、学年主任の先生と校長先生に、非核平和学習に参加している生徒がいるので、その発表の場を設けていただけないか掛け合いをしたところ、生徒会朝礼で話をするようになった。当日のスライドを盛り込んで、短い時間であったが、本人が発表をしてくれた。

全校生徒の前であったので、とても緊張したとは言っていたが、いい経験になったとのことであった。非核平和学習の事業研修の、公民館での発表は、多くの参加者が周りの人に戦争について伝えていきたいと言っていた。しかし、その発表を聞いていた人だけであり、限りがある。そのため、発表の場を設けていただくことを少し後押ししていただく、発表の場を設けることについての流れを作っていただくことは可能であるかお聞きしたい。本人の気持ちが最優先であるので、本人の意向を考慮してとなるが、そのような流れを作っていただくことで発表の場が増えるかと思う。

○事務局 今回、参加した生徒の中から、自分から進んで学校で発表したい気持ちになったとのことを受け、小・中学生広島平和学習の効果があることが改めて確認できた。貴重な感想をいただき、感謝している。

中学生に対しての発表の場については、学校への投げかけなど、今後ご検討させていただく。

○委員 感想と質問がある。

まず、被爆体験者の講演について感想がある。実際の被爆体験者の高齢化が進み、数が減ってきていることがあると思う。伝承者は、多くの場合、身内のお子さんだったり、お孫さんである

ことと思う。伝承者の講演を別のところでお聞きしたこともあるが、被爆体験者本人はすごく口が重かったりするが、それを身内の方が聞き出して、平和の思いを込めて語られるということで、違う意味ですごく感動した。

規模を大きくすることはできないと思うが、内容的には、より深い思いを持って引き続き実施していただきたいと思った。

次に、図書館に関して伝えたいことがある。図書離れは、こどもだけではないと考えている。

先ほど話題に上がった読書ノートについて、ティーン、中高生などは今、アプリで読書ノートのなものがたくさん出ている。

自分も今、スマホのノートに、読んだ本と、著者名と、読み終わった日だけを記録している。何かアプリでいいのがないかと思っている。例えば、アプリに詳しい職員の方が実際に無料のアプリを試し、こどもたちに薦め、本を読もうとする気持ちに少し手も向けられればよいと思う。

**○事務局** アプリ等については今後研究、検討をし、並行してノートについても検討していく。

こどもたちは、それを集めることが楽しみであり、小さいお子さんと、集めて持ってきてもらえる楽しみ、コンプリートする楽しみを持っていただき、頑張って読まれるこどもが多いとの話を伺っている。大人も喜ばれるようなものを何かできないか、少し考えてみたいと思う。

**○事務局** 先ほどの被爆体験伝承者について、追加で説明させていただく。

被爆体験伝承者は、広島市で養成した伝承者で、家族伝承者と被爆体験伝承者の方がいる。今回、小平市の講演でお願いした方は被爆体験伝承者であり、家族以外の方の記憶を伝承していた方であった。

小平市としては初めての試みだったのであったが、被爆体験者とは違った説得力があり、とてもよい講演会であった。

令和8年度以降の事業について、ここで申し上げることはできないが、機会があれば、伝承者の講演等について充実させていきたいと思っている。

また、今回の反省としては、基町高校の原爆の絵の展示で伝承された方の一人が今回の講師の伝承者であったので、そのような説明も、もし次回以降、機会があれば関連づけて説明できればと考えている。

**○委員** 非核平和学習と友・遊について、感想を述べたい。

まず非核平和学習について。私自身が基町高校の卒業生なので、基町高校のホームページをよく見る。ホームページには、基町高校の活動として原爆の絵を描いた生徒が、修学旅行で広島を訪問した生徒に、自分が描いた絵を基に説明をしている様子が紹介されていた。被爆者からの体験を聞き、絵を描く作業はつらい作業であると思う。しかし、その辛さを含めた自分の思いを伝えることが大切であると思う。小平市の広島平和学習にこの内容を取り入れることは、以前、お伺いしたときに時間的に今のプログラムに取り込むことが難しいとの話であったが、何かできることを検討いただければと思う。

また、被爆体験者が年々減っている。その中で、家族などの体験伝承者が体験の記憶を伝えていく役割を担っていくことを感じた。

10年ほど前になるが、小平第十四小学校で保護者の父親が被爆体験者であり、その保護者の方から、父親から聞いた話として体験談を聞く機会があった。

保護者の方は、原爆投下直後の様子を、スカイツリーのてっぺんに太陽が来たぐらいのエネルギーなんだと言っていた。

実感として、どんな熱になるのかのイメージとして示すことについて、伝承者の方なので、そのような表現ができるのかと思った。伝承者の方の声として伝えていただくこともこれから大切なものとなる印象を受けた。

次に、友・遊である。資料4の参加者数を見ると本当に増えている。

友・遊が始まった頃を思い返すと、参加者がいるのかいないのか分からないくらい、本当に参加人数が少なかった。それが長年続けていき、職員の工夫などもあり、事業として定着している。今では、公民館に足を運ぶことに対して全然ハードルもなく行けるようになった。また、この間、中央公民館のギャラリーに行ったところ、中学生か高校生の生徒が、夜、勉強している姿を見た。参加人数に合わせてテーブルも増えていた。

そのとき思ったことは、小さいときから公民館に足を運ぶことに慣れている子どもたちが、年齢を重ねて、公民館で勉強できるスペースがあるから行ってみよう、と足を運ぶ。そのようなつながりになっているのかと思った。

社会教育の事業は、やはり継続することがとても大切なことであると、その光景を見て思った。

図書館でも同様のことは言えると感じている。今いる大人を育てることも必要であるが、子どもときから、環境を整えていくことが将来につながっていくと思う。是非そのような取組みを継続して行っていただきたいと思う。

**○委員** 私事で恐縮ではあるが、まずは感想を述べさせていただきたい。

夏に娘が出産して、もう少しで4ヶ月になる。

4ヶ月健診のときに、市から絵本を頂いた。その絵本を母親である娘が、自分のこどもに見せることを目の当たりにした。4ヶ月のこどもであっても絵本をしっかり見ているのだと実感した。本当に大切なことであると思う。

次に、資料No.4の一日公民館長について質問がある。子どもたちが、どのようなことをされたのか。また、子どもたちの様子について伺いたい。

**○事務局** こちらについては、今年初めての取組みであった。午前と午後に分けて、対象者は3名であった。

子どもたちが行ったこととしては、地域に根差したものをやっという考え、公民館の地元の十五小に声をかけて3人集めまして、開会のセレモニーから、アナウンスとか、あと、会場を回って、やっている方と話をやり取りしながら、こういうことをやっているんだということの体験をしていただいたりしました。

あと、今、ウーパールーパーを飼っていて、ウーパールーパーの名前を募集している。応募が500~700ぐらい来ているような話を聞いている。募集した中から名前を決めてもらったり、それぞれの賑やかしをしてもらうような取組みを初めて行った。

○委員 図書館について質問と感想がある。まず図書離れについて。中高生、小学生もそうだが、数年前にうちで生活していた中学生が、たまたま一中の生徒だったというのもあるかもしれないが、朝読書の習慣があった。あと、校長先生もとても読書に熱心な校長先生だったので、通っていた3年間はすごく本に触れる機会が多い生活をさせてもらっていた。図書室の本のラインナップも、その年齢の子がとても興味が出そうな、すてきな本と言ったらあれだが、そのようなラインナップになっていて、「借りたかったのに、まだ借りられていた。」と言っていて、結構、取り合いにもなっているんだなと思っていた。中には、そのようにしっかり本になじんでいた子たちもいたのかなと思った。

あとは、他市だったような気がするが、ブックスタートの本を実際に頂いたことがあって、小平市では本が1種類だったのか、それとも何種類かから選べたかというのが、ちょっと私はあまり分からない。他市では選ばせてもらっていたような気がしたので、ご予算の問題もあるとは思いますが、そこがどうだったか聞きたい。

次に、子ども読書活動推進計画が昨年度までとの話であるが、今年度以降は、新しい計画、新たな取組みが始まっているのか教えてほしい。

○事務局 まず、ブックスタートについて説明したい。

こちらは、小平市も本を数冊の中から選べるようになっている。2冊の本から1冊の本を選ぶ事業を行っている。

次に、第四次の計画終了後の今年度についてであるが、第五次計画が同じ計画期間でスタートしている。前計画から継続している事業も多いが、今回から電子図書が開始されたことは、大きなテーマとして取り上げられている状況である。